

牡鹿に学びの場をつくるプロジェクト

2018年度 活動報告書

牡鹿に学びの場をつくるプロジェクトは宮城県石巻市牡鹿半島で地域の産業を活用して子どもたちの学びの場、ひいては地域のコミュニティの再構築を目指して立ち上がりました。

子どもたちを取り巻く環境

東日本大震災から8年が経過しました。牡鹿半島では高台移転はほぼ完了し、防潮堤もその姿を現しました。現在は道路や拠点エリアの整備などまだ完成までもう少し時間はかかると思います。牡鹿に住む小中学生も100名を切り、牡鹿中学校区の3つの小学校も一つに統合する計画が進んでいます。小学生は複式学級、中学生も1学年10名を切る学年もあり学校として出来ること出来ないことがますますはっきりしてきました。豊かな自然、海の見える校舎は変わりませんが子どもたちを取り巻く環境はたくさんの課題を含んでいます。

2018年度活動内容

★学び場

中学生対象

週2回ペースで実施。(年間延べ100日)

基本各自の学習計画に合わせて、出来ない問題を解説するというスタイルで行う。受験近くには各自の苦手な分野に絞り全員の合格ライン突破を目指す。中学生の5名は前期後期試験あわせて全員志望校合格しました。

通常授業の他に模擬テスト、漢字検定、英語検定試験を実施。



小学生対象

週1回で実施

漢字検定試験の対策として小学生の時間を中学生の前に設定。検定試験後にも学習習慣を身につけさせたいとの要望があり、小学生コースを開設。



漢字検定試験も準備をしっかりとて合格。うれしくてにやけてしまうので顔はNGだそうです。



本読みと作文の講座を実施。まとめ方のポイントを説明し実際やってみました。この授業は定期的にやると効果がありそうです。



ハロウインの差し入れがありました。



勉強前に大原小学校の校庭を貸切でリレー。子どもはやっぱり競争が好きです。



今年度から算数・数学検定を実施。椅子と机を牡鹿総合支所からお借りして鮎川集会所でおこないました。



牡鹿地区の小中学生全員が集まるクリスマスドリームに招待されました。みんな生き生きと発表をしていました。



2019年1月3日に今年も書初めを一緒に行いました。



大原生活センターの右側に新しい大原集会所が完成。



大原生活センターの海側に慰霊の丘が完成。2019年3月11日に除幕式を行いました。



牡鹿半島で亡くなられた方全員の名前が彫られています。

収益事業

牡鹿ブランドの商品を販売する第一弾のワカメは売り上げで20万円にとどまり苦戦。昨年度は企業のお歳暮として採用していただき売り上げが伸びたが今年度は個人販売のみだった。

第二弾のアナゴもそれほど反響が無かった。販売利益を運営費に充てるという性格上、商品自体が割高になるということと、仕入れ値の高騰、輸送費の値上げなど物販に関してはかなり厳しい状況であった。

商材を増やして組み合わせるなどの工夫はまだまだ必要だが安定的な財源を期待することはできない。



牡鹿の食材を知ってもらうというのもプロジェクトの大きな目的の一つである。

そのためにもより多くの人々に知ってもらう努力をしなければならない。宣伝方法や販売方法をさらに検討していく必要がある。



運営費

本プロジェクトは地域の産物を販売しその利益を運営費に充てることで地域の力で地域の子どもを育てる仕組み作りを目指しています。

平成30年度の収支は以下の通り。

平成30年度収支(平成31年3月末現在)

ワカメ団体購入	¥74,533	包装材、送料	¥34,128
個人購入	¥54,376	コピー機リース	¥60,000
寄付	¥520,000	管理費(事務委託)	¥240,000
		雑費(イベント等)	¥30,240
補てん	889546	講師謝礼交通費	¥1,152,000
収入合計	¥1,569,288	支出合計	¥1,569,288

成果

牡鹿の学び場は、少子化が進む中、地域の力で地域の子どもを育てる、環境を整備することが第一の目的である。今年度、小学生は学習習慣の定着と遊びを通しての体力づくりを目標に、中学生は学習においては弱点の克服と自信のない子どもたちに正しいやり方と継続することで実力が付いてきたことを実感してもらうことを目標にしてきた。小学生は各種検定試験を受験し、しっかりと準備すれば結果が出るということを感じてくれました。

中学生は進路で迷っている生徒もいましたが、しっかり話し合い自分がどうしたいのかを第一に考え志望校を決めてくれました。そして全員合格してくれたことも大きな成果です。この春から机と椅子がやっと導入できたため今後ますます学習環境が良くなることでしよう。



子どもたちの感想

以下のような質問形式でこの1年を振り返ってもらいました。

- ①氏名(イニシャル、ニックネームでもOK)
- ②学び場に来て自分が頑張ったこと。
- ③学び場に来てよかったこと、楽しかったことなど。
- ④高校へ行ってやってみたいこと。(高校へは自宅から通うかどうかも入れてください)
- ⑤牡鹿地区、自分の住んでいる浜がこれからどのようになってほしいか。
そして後輩に期待すること。
- ⑥将来は牡鹿に戻ってきたいかどうか？そしてその理由は？(これは現時点での考えです。)
(文章はあえて手直しせず原文のまま載せてます。)

①齋藤光です

- ②学び場では主に入試に向けての勉強やテスト勉強などをしました。
- ③勉強を友達同士でやってお互いに高め会えたこと
- ④高校では友達を作るのと部活で仲間と一緒に目標に向かって頑張りたい 自宅からバスです
- ⑤牡鹿が昔のように活気がある街になって欲しい
後輩には今を楽しんで欲しいです
- ⑥将来は1度はほかの所に行ってそこで経験とかを積んでそうしたらまた牡鹿に帰って人の役に立ちたい
と思います

①七海です。

- ②学び場に来て自分が頑張ったことは自分の苦手な所を分かるように勉強しました。
- ③学び場に来てよかったこと、楽しかったことは勉強している時に疲れたりやる気が出ないかたりすると他の人と一緒にお菓子を食べたりと気分転換できて勉強がスムーズに行ったことです。
- ④高校へ行ってやってみたいことは、資格など沢山とる機会があるので何事にも挑戦したいです。
- ⑤牡鹿地区、自分の住んでいる浜がこれからどのようになってほしいか。
そして後輩に期待することは震災前よりもっと賑わい、観光客が沢山来てくれるようになってほしいです。
そして後輩にはこの素晴らしい自然を壊さないようにし、地域の人々をたくさん笑顔にしてほしいです。
- ⑥将来は牡鹿に戻ってきたいかどうか？では戻って来たいと思います。なぜなら育ってきた自然を忘れられなくなると思うし、都会ではできない体験をいろんな人に教えたいからです。

以上、受験生2名の感想です。しっかり地元や後輩のことを考えているなというのが率直な感想でした。学び場の活動がいくらかでも子どもたちが地元を考える機会になってくれればうれしいことです。

課題

○学び場の開催場所について

牡鹿半島は少子化が進んでいるとはいえエリアが広い。

会場については全浜から通うことを想定し大原浜にしているが、送迎の問題で来にくい家庭も多い。今後は寄磯、鮎川地区でも学び場の開催ができないか検討。

○運営資金の確保について

物販によって運営費を生み出す仕組みは検討を重ね継続しますが安定的にと考えると厳しい現実がある。そこで昨年度末から物販に加え、賛助会員の制度を導入した。これは寄付とは違う形で個人で月々500円～の賛助制度を開始した。

○運営スタッフ不足

運営資金確保が進まないため人材の雇用ができない。単発のボランティアならばいいが、学び場は通年事業のため長期間のかかわりが必要だがそのめどは立っていない。

2019 年度活動目標。

- ・学び場通常学習の充実(小学生・中学生)。
- ・小学生向けの体育教室(球技)。
- ・会場の安定確保と使用
- ・教育効果のあるイベントや集会の実施。
- ・物販による安定財源の確保。
- ・子どもたちの主体性のある学習やイベントの実施、サポート
- ・賛助会員、寄付の拡大を目指す。

(文責:伊東孝浩)